

保護者・地域等学校関係者の皆様への教育長メッセージ ⑯

『生誕百年 松下芝堂 展覧会』

松下芝堂先生の展覧会に一文を寄せました。今年は芝堂先生の生誕百年となります。お生まれになった豊橋市の美術博物館で6月27日から7月12日まで記念の展覧会が行われます。小学生の頃、書道塾でご迷惑をおかけした私としては、少しでもお役にたてればと思い、文を書かせていただきました。芝堂先生と再び出逢うことになったのは、私が還暦を迎えようとした頃です。「津島の近現代の文化人」の講演を依頼され、プレゼンを制作し、更に津島の子どものたちの歴史読本『語り継ぎたい津島の歴史』の原稿を執筆した時でした。残念な事に芝堂先生はお亡くなりになっていました。市内の学校を訪れると校長室や玄関に先生の作品が展示されています。「花下酔（かかによろ）」「忠恕」「美しい心」「和以貴為」など多くの書道作品と向き合いました。「我、線の行者足らん」という一本の線にかけた先生の思いも知りました。青墨と紙のマッチングした淡墨の美しさを感じました。私は特に「和顔愛語」「不二」という作品に心魅かれました。先生は鈴木翠軒氏の高弟であり、旭日小授章、恩賜賞・日本芸術院賞や日展の文部大臣賞、中日文化賞を受賞された中部書道界の重鎮でした。有根会や興文会を主宰し、多くの書家を育てられました。今回の展覧会を通して、更に多くの皆さんが先生の作品と出逢い、先生のことを知って頂くことを願っています。

今年の全国都市教育長協議会の総会と研究大会は、5月13日～16日の日程で高知市で開催されました。文科省から「新学習指導要領のポイント…調整時間数制度、柔軟な教育課程（二階建て、個別最適な学びへ）」「学校規模の適正化（12～14 学級）」「中学校休日部活動の地域展開」についての行政説明が行われました。事例発表・テーマ別分科会でも、学校運営協議会（CS）と学校統合について話し合われました。「標準時間数内で教育課程を終えることができれば、①他の教科や総合的な学習にあてる②授業改善につながる組織的な研究・研修にあてる③新たな教科の開設 にあてることができる」調整時間数制度というゆるい縛りとなりそうです。高知大会のアトラクションは「よさこい踊り」でその迫力に圧倒されました。教育視察では、牧野富太郎植物園・坂本竜馬歴史博物館・高知城を見学しました。高知という町は歴史的資源に溢れていると思いました。また街中にはアンパンマン列車やアンパンマンの描かれたバス、レトロな路面電車も走っており、メルヘンの世界を感じることができました。

春燈や電車の窓より伊吹山

令和8年6月1日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視

『東海北陸都市教育長会に出席』

今年は金沢市で総会・研究協議会が開催されました。昨年の伊勢大会では「津島の達人ジュニア検定・選手権の歩み」について事例発表をしました。早一年。「休日の中学校部活動の地域展開」「学校運営協議会」「学校の適正規模による統廃合」などについて協議しました。行政説明では「新しい学習指導要領」の「好きを育み、得意を伸ばす深い学び」「一人ひとりに寄り添う多様性の包摂(インクルージョン)」「教師力を伸ばす授業時間の再点検」についてお話を伺いました。その後で研修として金沢市内の散策を行い、金沢 21 世紀美術館・金沢城・兼六園などを見学しました。アート作品が街並みに溢れる金沢の町が大好きになって帰ってきました。「余白の美」と言うか、街並みに余裕を感じるつくりとなっていました。

初任者の先生方にお話をする機会を頂きました。教職を続けることの素晴らしさ、続けていると色々なドラマが生まれることを経験から話しました。退職する時に教え子たちが開いてくれた同窓会の話、最近もらった 35 年ぶりの消息(メール)の話。人が人に出逢うことの素晴らしさを伝えたつもりです。また津島市の魅力について「人」と「祭り」と「食べ物」から話をしました。折角だったので津島名物「柿屋饅頭」をプレゼントしました。褒めて伸ばすことの大切さと共に「叱るときは強く、短く、相手の眼を見て、過去のことでなく今のことを叱るように」してほしいとお願いしました。理不尽な指導を行わないように話しました。初任の皆さんは真剣に聞いて下さいました。

今年もロボットによるプログラミング大会を行います。ロボホンを動かすことの楽しみを実感してほしいと思います。学校では様々な場面でロボットを活用した授業をお願いしたいと思っています。少し次元が異なりますが、月初めに平針で運転免許書の更新に行きました。何に驚いたかという、手続きが I T 化されスマートフォンが必需品となっていたことです。書類も写真もタブレットでした。そういえば昨年中国を訪問した時も、自動販売機の買い物すらすべてがキャッシュレスでした。これからの子どもたちにとって I T の活用は日常となっていくと思います。I T から逃げるのではなく、プログラミング大会にも果敢に挑戦してほしいと思います。保護者や地域の皆様にお願ひがあります。子どもたちが自立できるようアドバイスをしてやってください。大人が問題を解決したり、回答を用意したりするのではなく、子どもたちが問題に立ち向かえるような助言をお願いしたいと思います。

研修へ旅立つ朝や余寒あり

令和 8 年 5 月 1 日
津島市教育委員会 浅井厚視